

稚松校下のまいぶんマニュアル

1. 稚松校下ってこんなところ！

地形／稚松校下は海に面した平野にあります。

もともと海だった場所が、約 5,000 年前の縄文時代中ごろから

約 2,300 年前の弥生時代にかけて陸地となり、ひとが生活するようになりました。

ぜひ授業で
紹介してほしい
ポイント！



年表未登場の重要な遺跡／園町遺跡（園町）

おもな時代は弥生時代。教科書の小単元は「縄文のむらから古墳のくにへ」。

ポイント①＝丸内中学校の東側で、北陸新幹線工事に伴って最近新たに発見された弥生時代の濠（ほり）にかこまれたむら。

ポイント②＝J R 小松駅の北側約 2km の場所で、その辺りは標高 1～2m 程しかありません。低い土地は米づくりで水田に水を引きこむのに適しています。

年表に登場する遺跡その 1／小松城跡（丸の内町ほか）

おもな時代は安土桃山時代～江戸時代。教科書の小単元は「江戸幕府と政治の安定」。

ポイント①＝3 代将軍・徳川家光の時代、家臣の加賀前田家三代・前田利常が隠居した城

ポイント②＝「丸の内」という地名は「堀に囲まれた城の内側」という意味で、石垣を積んで島状に整備されました。通常、本丸や二の丸といった呼び方をします。

ポイント③＝現在は小松高校敷地内の本丸 櫓台石垣などわずかに残るだけですが、実は稚松小学校や芦城公園も「丸の内」でした。

年表に登場する遺跡その 2／大川遺跡（大川町）

おもな時代は江戸時代。教科書の小単元は「江戸幕府と政治の安定」。

ポイント①＝小松城の改修とともに整備された城下町

ポイント②＝北国街道沿いに町人地ができ、職人や商人の町屋が立ちならんでいました。出土した道具からどんな生活をしていたか、ぜひ想像してみてください。



右の地図を見て、
町を歩いてみよう！



稚松校下の遺跡



地形の説明



小松城跡
紹介



大川遺跡
紹介

2. もっと知りたい稚松校下のれきしじまん

江戸時代・前田家の城とその城下町

小松城跡・大川遺跡

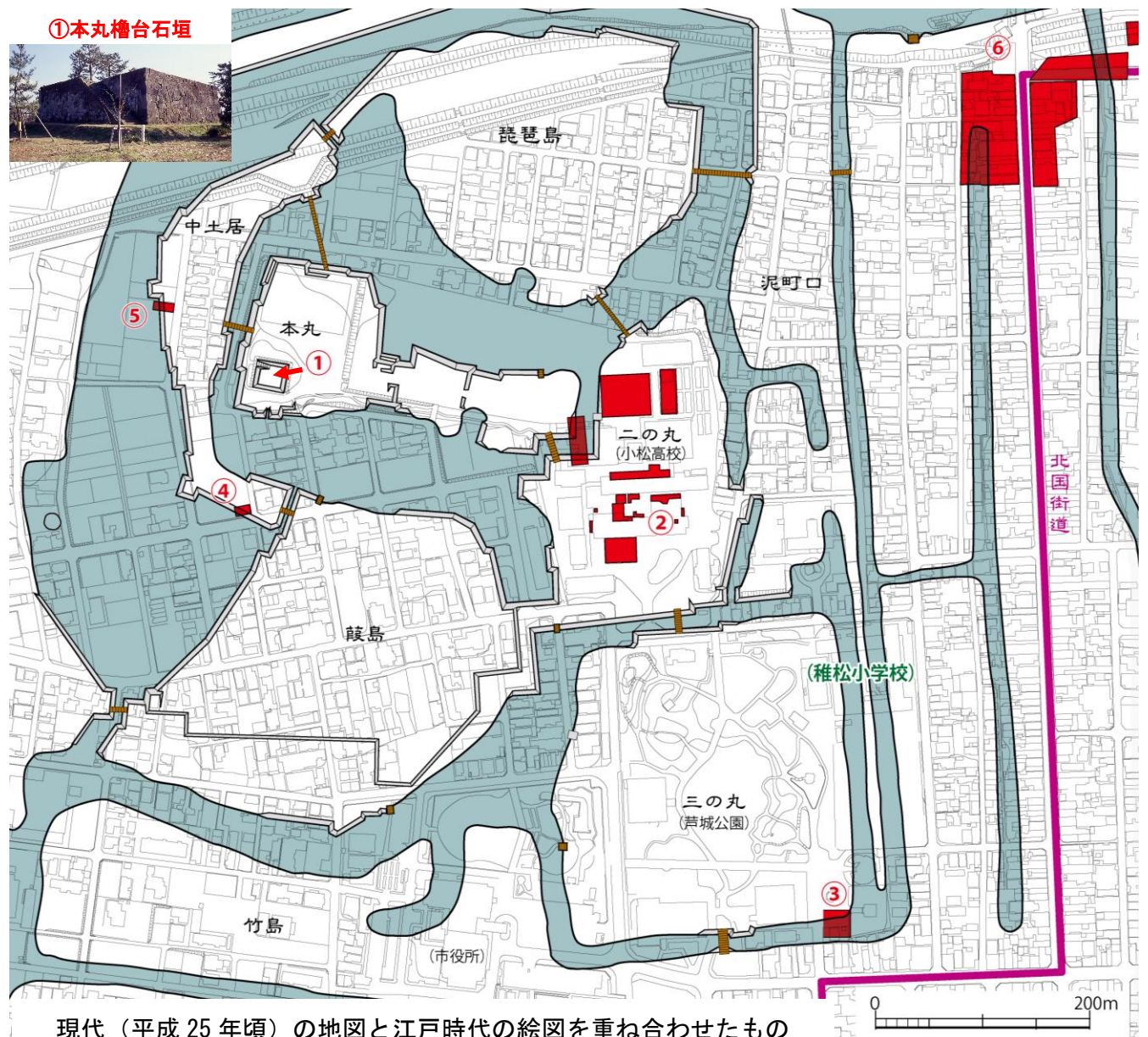
おおかわ

●遺跡のあるまち／丸の内町・大川町ほか

●キーワード／加賀前田家、城、城下町、一国一

城令、町屋、北国街道、五街道

小松城は、徳川家の家臣としてつかえた加賀前田家三代の前田利常が隠居した城で、その城下町としてさかえたあとが大川遺跡です。もともと戦国時代に築かれたと伝わる小松城は、一国一城令によっていったん廃城になったと考えられていますが、寛永 16 年（1639）から利常によって大改修されるとともに、城下町も整備されました。町屋が立ちならぶ城下町を通る北国街道は、江戸と各地を結ぶ主要街道「五街道」につながる重要な街道でした。



現代（平成 25 年頃）の地図と江戸時代の絵図を重ね合わせたもの



②本丸(左)・二の丸(右)石垣発掘調査



③三の丸石垣発掘調査



④⑤中土居石垣発掘調査



⑥大川遺跡発掘調査

②の写真は石川県埋蔵文化財センター提供